



## 平成24年度通常総会 呉東・呉西2ブロックでの 活動強化を目指す

平成24年度通常総会は、3月24日（土）午後4時からウィング・ウィング高岡7階、高岡市生涯学習センターにおいて開催された。

開会に先立ち嶋倉事務局次長の司会進行のもと、東日本大震災の犠牲者となられた方に黙祷。その後、23年度新入会員が紹介された。



**【小杉会長の挨拶（抜粋）】**あの未曾有の大災害から1年、皆様方はそれぞれの立場でそれぞれの思いを持って救援・支援に携わってこられたことと思います。防災講座も急増し、富山市防災講座等合わせて88件約5千人に近い皆さんに意識高揚を図る機会を持ち得ました。富山県防災士会として一般市民の防災意識の啓蒙啓発に少しは貢献できたのではないかと考えています。また、富山県広域消防防災センターの事業の一部を我ら富山県防災士会が担当することになっており、本年度は一層多忙になってくるものと思います。

**【平成23年度事業報告】**東日本大震災の影響もあり、富山市防災対策課を通じて申し込まれる防災講座の依頼件数は50件を超え、昨年比べて倍増したこと、更にはその他の団体から防災講座の要請（38件）、テレビ・ラジオ・新聞等マスコミの取材・放送（13回）も大幅に増えたことが報告された。このことは、一般市民の一時的にせよ防災意識が高くなったことを表すものであり、防災士としてもこの機会をチャンスと捉え、広く一般市民の防災意識を一層高めるための努力を積み重ねなければならない。また、富山県防災士会として災害時の対応や防災講座のすすめ方など様々な課題解決が求められていることが報告された。

**【本年度事業計画の特徴】**平成24年度事業計画の特徴として、①災害時行動計画の策定 ②呉東・呉西の2ブロックに区分した行事の実施等が強調され、さらに富山県広域消防防災センター（四季防災館）でのイベント時の支援が加わったことが報告された。

本年度の総会は会員の70%の参加率で例年になく盛会。会員皆さんの意識の高さが感じられた。

## 通常総会前に研修会を開催 『防災士と防災教育』について 大西富大准教授(本会・参与)が講演

総会に先立ち、スキルアップを図るための研修会を行った。講師は我ら防災士仲間でもある富山大学人文学部准教授大西宏治先生。

研修会の主題は、①防災士が関わる防災教育の可能性の検討 ②過去の災害に関する知識の整理 ③今後新たに発生するかもしれない災害への対応に関する検討 ④災害に対する地域特性の理解の4点。

講演の中で、「防災教育の内容は、その地域固有のコンテンツを組み入れることが地域防災力向上に最も役立てることができる。ここに防災士として出番があり、防災士が活躍できる場所がある」ことを強調され、「富山の災害、自分たちが住む地域の災害をあらためて学習してはどうか」と提言された。



また、「富山県の自然環境の成り立ち、私達が住んでいるところはどんなところなのか戦前の地図と最新の地図を比較しながら、どう変化してきているかを知ることは極めて有効である。それこそ日本防災士会の活動理念にもある地域密着型の防災士である」ことを示された。

更に、「ハザードマップ・地形図を持って身近かな町を歩くことが防災につながる。避難所まで歩いてみる。標高を確かめる・・・など身をもって体験しておくことが大切である」と述べられた。

### 【まとめ】 これからの防災士に望まれること

- 地図を使って地域の災害を勉強しておくことが大切。
- 発災前の啓発活動はその土地の履歴を手がかりにして地域を知ることから始める。
- 各地域で防災に関する意識を作る活動ができるか注意喚起が必要。

**お知らせ** 富山県社会福祉協議会を通じて「ボランティア活動保険」に加入しました。対象者は、5月18日現在在籍の富山県防災士会会員51名。対象となるボランティア活動は、日本国内における「自発的な意思により他人や社会に貢献する無償のボランティア活動」で以下に該当する活動です。①富山県防災士会の会則に則り立案された活動 ②社会福祉協議会に届け出た活動 ③社会福祉協議会から委嘱された活動

## 第2回例会を開催 「防災士が震災時になせる業」 山本・ヤマヤ物産社長(防災士)が講演 心肺蘇生とAEDの訓練も実施

2月11日(土)午後1時30分から、高岡市福岡防災センターにおいて平成23年度富山県防災士会第2回例会を開催した。会員17名が参加。

第1部では、山本修一氏(ヤマヤ物産有限会社社長：防災士)を講師に招き「防災士が災害時になせる業」と題して講演していただいた。山本氏は、阪神淡路大震災のボランティア活動参加がきっかけとなり、以降の数々の災害時のボランティア活動に参加。その経験をもとに、東日本大震災での活動状況について、現地の生々しい被災状況にも触れながら、



- ・ボランティアは行政ができない部分を補う
- ・災害時は災害用モードでの対応が必要
- ・普段から災害時を基準に物事を考えており、災害時にはできるだけ早く支援に行けるようにしている等と話された。

第2部では、関防災士(日赤指導員)の指導による心肺蘇生とAED使用の実施訓練を行った。



この訓練は「何時でもできる」「人に教えられるまでになる」防災士をめざして再訓練を目的に企画したもの。参加者の笹岡防災士から、『自分はAEDのおかげで助かった』との体験談があった。

この訓練では訓練器材を日赤より5体、不二越安全センターより1体お借りした。

### 富山シティエフエムの生放送に出演

4月25日(水)午後1時～3時放送の「スマイル！」に小杉会長と黒畑副会長が出演された。パーソナリティの水上啓子さんの進行のもと、防災をテーマに防災士の役割や本会の活動などについて約30分間話された。



## 4月1日開館に先立ち 四季防災館を見学

### 地震、風雨等の体験設備が充実

3月22日(木)午後1時30分から2時間、富山県広域消防防災センター内の四季防災館を見学した。

当日は、消防関連の団体と防災士に公開され、小杉会長以下8名が参加。四季防災館の1階は、地震体験施設、高齢者等助け合い体験施設及び防災シアター

2階は、初期消火体験施設、煙体験施設、風水害体験施設、及び流水体験施設

3階は、パノラマラウンジで立山連峰が一望できるこれらの施設において我々は流水体験施設を除くすべてを体験。



特に、地震体験施設は東日本大震災時の地震、阪神淡路大震災時の地震及び能登半島地震を体験。これらの地震がそれぞれ全く異なる揺れであった

ことを確認した。

四季防災館から各種の講演依頼が来ており、その会場となる会議室も見学できた。プロジェクター、スクリーン、ビデオ等の器材は一通り揃っている。今年度のなるべく早い時期に、皆さんで施設での研修をしたい。

### 第1回 出前講座勉強会を開催

5月19日(土)午後4時から6時まで、富山市の婦中ふれあい館で会員向けの勉強会を開催した。講師は吉澤防災士。

「液状化について(講師作成パワーポイント)」と「呉羽山断層帯被害想定調査結果



(防災・危機管理課作成)」について詳しく解説された。意見交換も活発に行われた。



### 上半期の主な行事予定

行事名	予定日	内容	場所
第1回例会と 会員交流行事	7月22日(日) 10:00～16:00	バーベ キュー で懇親	県民公園 太閤山ランド (射水市黒河)
出前講座 勉強会②	8月4日(土) 13:30～16:00	計画中	富山県 広域消防防災 センター

(詳細は決まり次第ご案内します。)